

平成30年2月3日から8日にかけての大雪と気象庁の対応

概要

日本付近は、2月3日から8日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、上空5000メートル付近でマイナス30度以下の強い寒気(平年より10度以上低い)に広く覆われた。

北日本から西日本にかけての日本海側を中心に断続的に雪が降り、福井県福井市では昭和56年(1981年)の豪雪(196センチ)以来37年ぶりに積雪が140センチを超えるなど、大雪となった。普段雪の少ない九州や四国などでも積雪となったところがあった。

気象庁の対応

各地の気象台では、警報や気象情報等を適時に発表し、国土交通省や各地方整備局等と共同で「大雪に対する緊急発表」を行い、報道機関を通じて警戒を呼びかけた。

記録的な大雪となった福井県では、6日に福井地方気象台が福井県と連携して報道発表を行い警戒を呼びかけるとともに、福井県に対しリエゾンを派遣し、今後の気象の見通しや想定される影響等をきめ細かに解説した。

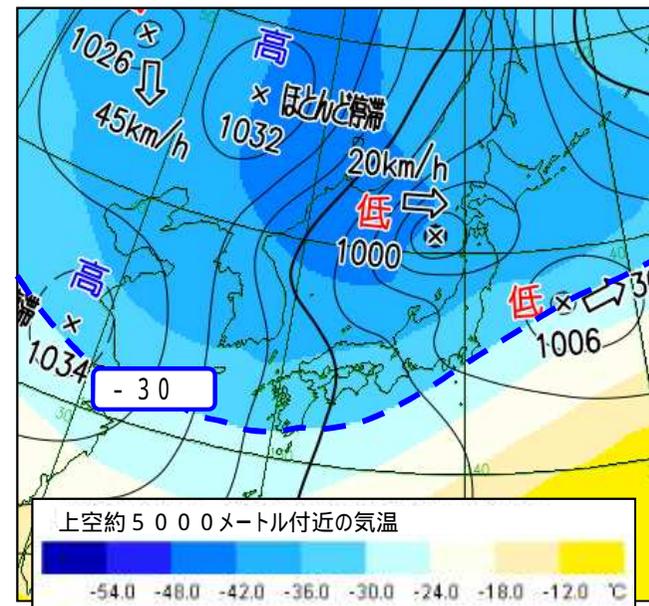
今後の取組

今回の大雪事例について、自治体や関係機関の協力のもと「振り返り」を行い、必要な改善を図る。

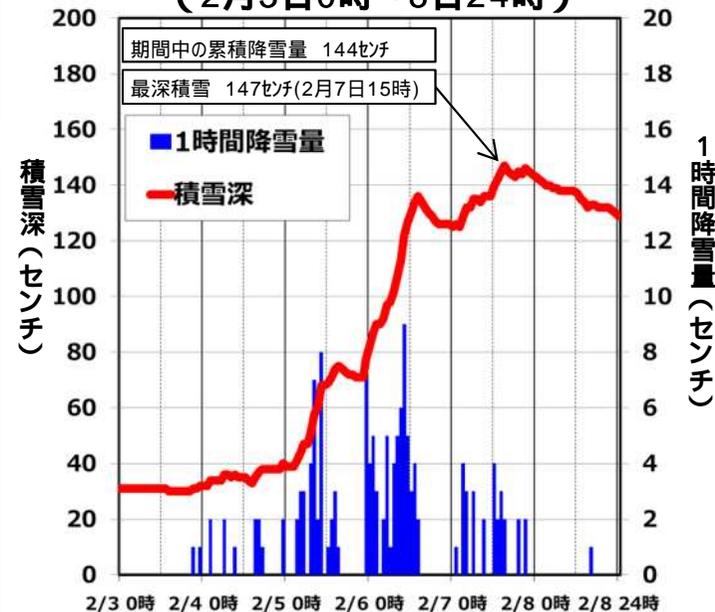
- 気象台が発表する府県気象情報に、都道府県による積雪観測データの掲載を推進
- 厳重な警戒を呼びかける気象情報の内容や発表タイミングの改善
- 降雪の的確な監視・予想のための技術開発を推進

国土交通省とも連携し、道路管理者や鉄道事業者の意見も伺いながら、これら者への大雪に関する情報提供のあり方について検討。

地上天気図と上空の気温(実況)
6日(火)12時



福井県福井市の積雪の経過
(2月3日0時~8日24時)



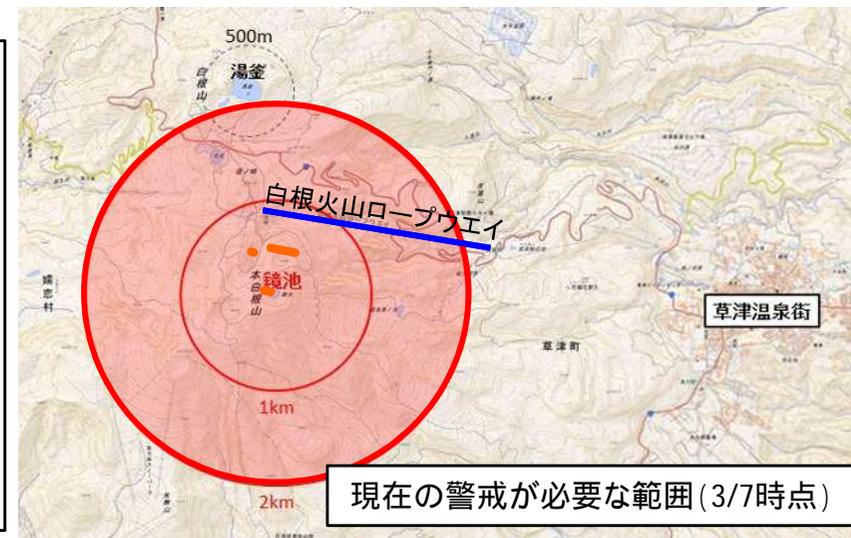
草津白根山の噴火と気象庁の対応

概要

草津白根山(本白根山)では、平成30年1月23日10時02分に噴火が発生。噴火した場所は、鏡池北火口北側の火口列と西側の火口及び鏡池火口底の火口列と推定。

今回の噴火は、近年活動が活発な白根山の湯釜付近ではなく、有史以来噴火のなかった本白根山付近で、噴火の前兆と言えるような特段の火山活動に変化がないまま発生。

現時点ではマグマ噴火に移行する兆候は認められないが、当面は1月23日と同様な噴火が発生する可能性は否定できないと評価。



気象庁の対応

1月23日11時05分に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)に引き上げ。

同11時50分に噴火警戒レベル3(入山規制)に引き上げ。

現地に職員を派遣し、降灰調査や機動観測の実施。地震計・空振計(各2箇所)、監視カメラ(1箇所)を設置し、観測体制を強化。

地元自治体に職員が常駐し、火山活動や気象状況の解説を実施。防災活動を支援。



今後の取組

火山噴火予知連絡会「草津白根山部会」において、今後の火山活動をより詳細に把握するための観測体制の検討及び草津白根山のきめ細かな火山活動の評価を実施。

同「火山活動評価検討会」において、常時観測火山を対象に過去の噴火履歴の精査や現在の観測体制(特に監視カメラ)の点検、今後の観測のあり方を検討。

監視カメラで直接噴火を捉えることができず、噴火速報の発表に至らなかったことから、関係者の通報の噴火速報への活用や関係行政機関との情報共有を進める。